

の 未来を潤す 緑の力」

全国育樹祭

毎年秋に行われている全国育樹祭。第31回となる今回は、11月4日に熊本県阿蘇市にて開催されました。雲は少しあるものの、好天に恵まれ、約六千人の人々が参加しました。水、空気など様々な恵みを与えてくれる森林の重要性を改めて認識し、また、現在ある森林を今後も継続して守り育てるきっかけとなる、森林づくりを全国に広める大会となりました。



阿蘇の大自然のなかから
森づくりの大切さをアピール

熊本県阿蘇の雄大な山々のなかで、第三十回全国育樹祭が行われました。全国育樹祭は、昭和五二年以来毎年秋に開催されている記念行事です。全国各地からの参加を得て、皇太子同妃両殿下によるお手入れ（全国育樹祭において天皇皇后両陛下のお手植えにより成長した木の枝打ち等）や参加者による育樹活動等を通じて、国民の森林に対する愛情を培うことを目的に毎年開催されます。

私たちが古来より親しんできた森林は、木材を供給してくれるだけではなく、地球温暖化につながる温室効果ガスを吸収・固定することにより地球環境を保全し、山地災害を防ぎ、また多種多様な生物を育むなどさまざまな機能をもっています。

さらに近年では、森林と触れ合うレクリエーションや、子どもたちへの環境教育、森林の中に入ることのでられる癒しの効果も期待されています。

国民の一人ひとりがこのような緑の恵みを享受しながら、それを継続



今年のテーマは「この地球^{ほし}」 第31回

[今回のシンボルマーク]

この地球の未来を潤す
みどりの力



第31回
全国育樹祭

平成17年度に公募により決定されたシンボルマークです。熊本県玉名市・前田彩さん（公募時・中学2年）による作品です。円の中に葉っぱ、そして水滴を配置することによって、森林がもつ環境保全機能をシンプルに描かれています。また、緑の力が地球の未来を潤していくさまがわかりやすく表現されています。

するための森林整備と保全を次世代にまで続けていくことが不可欠です。今回の大会が開催された熊本県は、県土の六割を森林が占め、豊かな森林とそこから生み出される清らかな水を県民共有の財産として将来にわたって保全し、健全な状態で次の世代に引き継いでいくための「水とみどりの財産づくり」を県政の重要な柱としています。そして、各方面とパートナーシップを組みながら、森林との共生を目指し社会全体で森林を支えていくための取組みを進めています。

ざした森の文化への理解を深めることで、森を活かし育てる心を培い、県民共有の財産である森を健全な状態で次世代へと引き継いでいくための県民参加による森づくりを進めていこう、というものです。

今回は、「この地球^{ほし}の未来を潤す緑の力」をテーマに大会が実施されました。

式典会場の整備・設営にあたっては、県産木材等の地域資源を活用するなど、オール地産地消に徹しています。また、必要最小限の整備などで効果的な演出が得られ、周囲の景観・環境に十分配慮したつくりになっています。たとえば、道路から会場入口まではウッドチップが敷かれ、歩きやすくなりました。また、会場内の通路にはさまざまな花の植えられたプランターがずらりと並んでいます。これは、緑の少年団などによりつくられたものです。秋に咲く花を選定し、それぞれの緑の少年団が心を込めて育てたものなのです。

このように、大会当日はもちろん、事前の準備も「みんなで育て」ていこう、という思いのもとに今大会は開催を迎えることができたのです。



上 : 皇太子殿下の御臨席を仰ぎ、式典が開催されました
 右上 : 緑の少年団の団員が三旗を持って入場し、熊本県・一新小学校のマーチング隊に先導され、県内の緑の少年団が行進しながら入場していきます
 右下 : 熊本県警察音楽隊や県内の高校、中学校による吹奏楽隊や合唱隊、マーチング隊が式典音楽隊として、式典を盛り上げます

地域色豊かな 全国育樹祭

今回の大会に参加したのは総勢約六千人。皇太子殿下のご臨席を仰ぎ、若林正俊農林水産大臣や林業関係者、県内の参加者が約二五万人のほか、県内のボランティアの方々などのスタッフが大会を支えました。

会場入口から周囲の景色とプランターの花々を楽しみながら歩いていくと、おもてなしの広場と名づけられた場所につきます。ここは、さまざまなパネルの掲示や木製品などの展示・販売が行われていました。広場を抜け、さらに歩いていくと式典会場につきま

す。

式典前には、郷土芸能である、**雅太鼓**（みやびたい）が秀岳館高等学校の生徒により披露されました。太鼓とドラの力強い音が会場内に響き渡り、にぎやかで楽しい雰囲気を出していました。

そのとき、隣接する場所で行われていたのが皇太子殿下のお手入れ。その模様は大画面のモニターに映し出され、会場のあちろちらにいたる人もその様子を拝見することができました。

今回、皇太子殿下がお手入れをされたのは、昭和天皇が第三六回全国植樹祭（昭和六十年）でお手植えされたスギです。詫麻原緑の少年団と林業後継者

である芦北高等学校の高校生の介添えによりノコをお受け取りになり、枝打ちのお手入れをされました。終わったあとに緑の少年団員たちにノコを手渡される際に、やさしくお声をかけられる皇太子殿下のお姿が印象的でした。

映像中継が終了すると、「火の国のうた」、「阿蘇」を合唱隊が歌い上げました。「どっこど」 「どっこど」 「燃える」といった歌詞に負けない力強く澄んだ声が、阿蘇の秋空に響き渡りました。

皇太子殿下が式典会場に御着され、緑の少年団の子どもたちが御先行を勤め、式典の始まりです。

社団法人国土緑化推進機構副理事長による開会のことばのあと、国旗などの三旗が入場しました。先導を勤める一新小学校のマーチング隊も、あとに続く緑の少年団員たちも、足並みを揃えしっかりと行進しながら進んでいきます。マーチング隊の演奏は、「世界にひとつだけの花」。みんなで森づくりをしていこう、という主旨にピッタリの曲でした。

江田五月大会会長、潮谷義子熊本県知事挨拶などのあと、皇太子殿下によるお言葉をたまりました。全国緑の少年団活動発表大会入賞団体や、全国育樹活動コンクール入賞者などの受賞者が表彰され、熊本県内の緑の少年団が育てた苗木が若林農林水産大臣の手



右上：メインテーマに沿った創作劇では、四部構成でバレエ、創作ダンスによるパフォーマンスが行われました。阿蘇の地を開いたという建磐龍命の神話から、森と水、人間の関係を描いた作品です

右下：会場には多くの子どもたちの姿が見られました

上：左から、全国緑の少年団活動発表大会入賞者代表の久瀬みどりの少年団（岐阜県）全国育樹活動コンクール入賞者代表の栗原克範さん、「ふれあいの森林づくり」優良市町村等入賞者代表の特定非営利活動法人緑のダム北相模の宮村連裡さん、熊本県緑化等功労者代表の渡辺忠明さん

右：若林正俊農林水産大臣もお手入れをしました



式典を盛り上げる緑の少年団



今回の育樹祭大会会長である江田五月大会会長の枝打ちを介添えしたのは、菊水中央緑の少年団の坂口天音（写真右）さんと、千々岩建（写真左）さんです。「選ばれたことはとてもうれしいけど、緊張します」（坂口さん）「礼法をきちんとしなければいけないと思っています」（千々岩さん）。介添え前だっただけに、とても緊張している様子です。のこぎりとお手拭をお渡しする役目を果たしたあとは、緊張もほぐれ、達成したという爽快感がいっぱいの笑顔を見せてくれました。

林野庁次官に介添えをしたのは、つなぎ緑の少年団の榎本晴香さんと坂本詩織さんです。緑の少年団には、二人とも長年関わっておりベテランの風格。介添え前にどんなふう緊張しているかを聞いたところ「間伐みたいの木を一本伐り倒したいくらいです」と答えてくれました。「緑の少年団の活動は、楽しいから続いています」（坂本さん）「海岸線の清掃活動は、手が汚れそうで始める前は嫌な気持ちでしたが、いざやってみたら、みんなで一緒に活動できたので楽しかったです」（榎本さん）

介添え後には、「安心しました」と二人ともほっとした顔です。「朝早くからごころうさまです」ってお声をかけてもらえました」と、うれしそうに笑顔で答えてくれました。

を通じて全国の緑の少年団に贈呈されたのち、メインテーマアトラクション創作劇が始まります。阿蘇市出身の声優、常田富士男さんが森の語り部として出演し、地元のパフォーマーたちによって、「森々せせらぎ〜川々海をつなぐ水の旅（命のリレー）」と「緑の恵みと人との共生」が四部構成のダンスで表現され、音楽と共に心を打つものでした。出演者のほとんどが子どもたちであることも印象に残りました。大会宣言や、愛媛県知事による次期開催県挨拶のあとに、皇太子殿下が会場を御発され、エピソードとしてマーチング演奏や「五木の子守唄」の独唱、出演者全員による「サンバおてもやん」

で会場が一体となって盛り上がり、そのなかで大会は終了しました。大会宣言でうたわれた「将来にわたって、豊かな緑が守り育てられ引き継がれるよう、森林環境教育等を通じ、森林づくりを担う青少年の育成に一層努力する」とあり、多くの子どもたちや若者たちが参加していることが、未来の森林づくりを考えるうえで心強く感じられました。私たち国民にとって、森林のもつ地球温暖化防止能力など多くの機能は欠かせないものです。それを維持し、また次世代に引き継いでいくという意味で、とても意義深い緑の祭典となりました。

大会を支える人々

多くのボランティアや、団体の参加

第31回育樹祭の当日、参加者たちはオレンジ、青、緑などさまざまな色の帽子とウィンドブレーカーを着ていました。そのなかでも注目したいのが赤色。会場内で数多く見られたこの色は、ボランティアとしての参加を示す色なのです。

また、多くの団体が式典会場に隣接する、おもてなし広場にて熊本の名物品や飲食物の販売を行っていました。たくさんの人々の力で開催された今大会。縁の下の力持ちの方々を御紹介します。

おもてなし広場、と名づけられた、お手入れ会場と式典会場に挟まれた広場では個性豊かなブースがずらりと並んでいました。熊本名物「いきなりだんご」という、さつまいもの上にあずき餡がのっているものを包んだお団子や、高菜、牛乳などが販売されています。

また、阿蘇山、阿蘇神社、火祭りなど熊本を象徴するものをパネル展示していたり、第三一回全国育樹祭熊本県実行委員会による全国育樹祭

開催までの取組みがパネル展示されていました。

ここで木のおもちゃを販売していた、社会福祉法人川岳福祉会地域活動センター「わいわい共同作業所のブースにお話をうかがいました。わいわいパズル」という、木を組み合わせて正方形にするパズルです。この作業所の皆さんは、知的発達、身体、精神障害をもつ方、また脳卒中などで精神・心理面での障害をきたす高次脳機能障害の方と、さまざまな種類の障害をもつ方たちです。そのような方々がそれぞれの役割を果たしながら、つくられたパズルなのです。

このパズルの材料は、近隣の表具店が障子などをつくった際に余った切れ端を使っているそうです。捨てられてしまうはずの木材が、障害をもつ人々の手により生き返るのです。リサイクルでもあり、障害をもつ方々のリハビリにもなり、それが売れることによって、障害をもつ方々のやる気、生きがいにも繋がるそうです。

おもてなし広場では、ボランティアにより温かいお茶が無料で配られていました。そこで働いていた島田

智美さんにお話を聞きました。

「八代の、自然が溢れる地で生まれ育ちました。もともと木や海、自然がとにかく好きで、山登りなども良くしていたものです。今は熊本市に引っ越して来ましたが、周囲に緑がある環境づくりに少しでも貢献したいと思っています」

これまでも、各地の森林整備に関するボランティアに携わってきたという島田さん。今回も、そのつながりで「育樹祭が行われるのだけども、やってみませんか」と声をかけられたそうです。

「今日は「湯茶接待班」としてのボランティアですが、どんな形でいいのでお手伝いできれば、と思って来ました」

という島田さん。今後についての夢があるそうです。

「できれば、今後、森林保護や整備に関わる仕事に就けたらと思っています。五十年後、百年後の日本のために何かができれば、こんなにすばらしいことはありませんよね」

とニッコリ。周囲のボランティア仲間にはやされながらも、真剣に語ってくれた言葉にはずっしりとした重みがありました。



右上：わいわいパズル
右下：ボランティアスタッフの島田智美さん
左上：通路には花々が配置
左下：社会福祉法人川岳福祉会地域活動センターわいわい共同作業所のブース

小国町 会場

小国町会場には、小国町森林組合代表理事組合長・高野悠爾さんや林家の坂本昭和さんなどが集まり、主に「小国杉」について話し合われました。



・平成18年7月に森林認証を取得して、環境に配慮した安心と信頼の小国材を掲げています。森の中をきれいにしよう気をつけながら作業をしています。

- ・川上と川下あわせて15社のメンバーでくまもと森林認証住宅ネットワーク「小国杉の家」をつくりました。
- ・現在、長引く木材価格の低迷により林業による収入が減少し、育林や再造林への意欲がそがれ、山が荒廃してしまっているという事実があります。
- ・「小国杉」のブランド化に成功し、林家の取得額の増加につながれば、山の整備もでき、林業従事者や木材関連の関係者の方たちの意欲も向上し、小国の林業がより活性化すると思われます。
- ・認証材を使って家を建てることは、山を守り、地球環境にも貢献でき循環型社会をつくるという意識で取り組んでいます。
- ・小国杉で家を建てることにしており、完成が楽しみです。小国の杉の家は暖かみがあり、調湿性もあり、冷暖房も抑えられ、地球環境問題にも貢献できるので幸せだと思います。

阿蘇市 会場

- ・林業の採算性が悪化し、間伐等の施業や伐採後の植栽が行われない森林が増加しています。また、ニホンジカが増え、被害が拡大しています。間伐等の森林整備に対する定額助成の拡充や高齢級間伐に対する助成の拡充などに取り組むことをお願いします。
- ・熊本県でも美しい森林づくりの県民運動を展開していくための核となる組織を先般立ち上げたところです。本日の育樹祭での盛り上がりを目指し、さらに各界各方面に働きかけていきたいと思っています。
- ・公共事業における土木資材や公共施設などに国産材の採用をお願いします。そのために、国土交通省や環境省など、各省庁との連携を取っていただきたいと思っています。
- ・最近では、箸や爪楊枝を使うことが、世間では“自然破壊”と思われるようです。そのような意識を改革するPR活動の対応をお願いします。
- ・林業担い手の育成、確保に向けた取り組みや効果的な助成をお願いしたいと思っています。

これらの意見や要望に対し、若林農林水産大臣から森林整備の重要性や木造住宅の良さなどについて説明があったほか、美しい森林づくりに向けて一緒に国民運動を進めていきたいと思います、とのメッセージが皆さんに伝えられました。

美しい森林づくり キャラバン

若林農林水産大臣との意見交換会を実施

全国育樹祭の前後に、小国町会場、阿蘇市会場の2ヶ所において若林正俊農林水産大臣が地元の林業関係者などとの意見交換会を行いました。この交換会でどのような意見が出されたのか、各会場ごとにまとめました。

阿蘇市会場では、熊本県森林組合連合会代表理事会長・松村昭さんや、社団法人熊本県木材協会連合会会長・大石駿四郎さんなどが集まり、熊本県全体の林業や木材産業など各方面からの意見が出されました。

